

Q 歴史まちづくり計画を
なぜ急ぐのか

A 大震災からの復興再生のシンボルと
したい



渡辺勝弘議員

問 「歴史まちづくり計画」の策定を急いでいるように思えるが、急ぐ理由があるのか。

町長 指摘のとおりだが、現在整備を進めている道の駅への有利な補助を引出し、さらに、この機会

に10年後、100年後の大震災からの復興再生のシンボルとしての計画策定としたい。

問 「歴史を活かしたまちづくり」とは、どのようなものか。

町長

奥山家住宅を活用した街並みの整備や阿津賀志山防塁を活用した回遊ルートなどの整備などを計画に盛り込む。

そのことで本町の「復興・再生」につながる「歴史を活かしたまちづくり」を進めていく。



紅茶パーティーで文化財を活用(奥山家住宅)

町民とともに「国見の誇り」となるまちづくりが展望できるものと考えている。

問 本町が歴史の町であることは、町民にはまだ浸透していない。

どのような方法を考えているか。

企画情報課 課長 この計画を策定する

ため6月から3回、成果発表及び参加者による討論会を開催する。1回目には多くの人が参加してもらった。

また、歴史ボランティアの公開研修会やふるさと歴史教室などの生涯学習事業とも連携し、さまざまな機会を活用していく。

問 当町には歴史的建造物や文化財が多数ある。その全

てを対象とするのか。

企画情報課 課長 この制度では、歴史的風致に該当する区域の中にある歴史的建造物などが対象となる。

えるためには、わかりやすい資料づくりが必要ではないか。

企画情報課 課長 国が認

定した計画を、子どもたちの副読本として活用できるように、計画策定に向け努力していく。



歴史まちづくり福大連携講座の様子(観月台文化センター)

Q 今後の鳥獣被害対策は

A 人と野生鳥獣の住み分けを目指す

問

昨年度の町の鳥獣による被害額は約580万円。これは被害届があったものの数字である。すべての被害を町は把握しているのか。

鳥獣による被害額は約580万円。これは被害届があったものの数字である。

実施隊で目撃情報を把握し、その都度、現場を確認している。

問

電気柵は配線に草がからみ漏電を起こす欠点がある。

ほかにも防止資材がある。なぜ電気柵だけを補助対象にするのか。

課長

補助事業を始め、業に協賛し、簡便で農家負担が少なく、効果が期待できるとして選定した。

問

今後の町の取り組みについて。

町長

これまでの取り組みを継続しながら、鳥獣捕獲のみならず、鳥獣被害対策ではなく、人と野生鳥獣の住み分けや共生を目指すように関係機関と調整しながら検討していく。

問

事業の効果を確認にあげてき

問

順調にあげてきたが、今年度は事業の後退を感じさせるが。

問

小学校の太陽光発電のみ蓄電池が設置されていない。停電時は自家発電で対応するのか。

教育次長

夜間の利用を想定してない。

課長

被害状況や対策についての座談会を一昨年から開催している。また、鳥獣被害対策

問

町鳥獣被害対策実施隊の報酬額が時間当たり890円は安いと思うが。

課長

非常勤嘱託職員等設置規程に基づき支給している。

問

伊達市などで獲報奨金に市独自に乗せをしているが。

問

過去2年間の補助額は500万円であった。しかし今年度は200万円と大幅な減額だ。申請者が多ければ補

太陽光発電事業補助金を増額するのか

問

過去2年間の補助額は500万円であった。しかし今年度は200万円と大幅な減額だ。申請者が多ければ補

正を考えるのか。

十分検討する必要がある。

課長

国からの交付金を財源としているため、限りがあり、現在の予算内での執行とならざるを得ない。

問

小学校の太陽光発電のみ蓄電池が設置されていない。停電時は自家発電で対応するのか。

夜間の利用を想定してない。

町長

この事業は太陽光発電の普及啓発が目的。同時に、町民の動向や財源、国県の補助の動向を総合的に見ながら町としての低炭素社会のあり方を



阿部泰蔵議員



実施隊がオリを設置
(高城字家老地内)